

田原市議会傍聴記

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

田原市議会の風景
が変わった。

無投票であったが

1月の市議会議員選挙を経て5人の新人議員が議席を得、教育長も花井隆氏が制度改正後初の教育長に、そして何よりも市長席に座るのは山下政良氏。

選挙戦では市政の停滞ぶりを指摘し、「副市長は二人もいない。市長がもっと働けばいい」と訴え続け、大方の予想を覆しての逆転勝利。

それだけに職人のような一徹さややる気が満々である。

6月1日の所信表明では「元氣な渥美半島を一緒に作っていきましよう」と力

独自性があり、現在の20のコミュニティが維持されることとが理想」とした。

伊藤 秀昭
「これを受けて一般質問では2人が代表質問を行った。」

元氣な渥美半島
長神隆士氏(自民クラブ)は市政運営の基本的方針について18項目にわたって質問した。

課題山積 山下丸の船出

また市長給与10%削減については

「職員時代に続いて、税金から給与をいたたく立場となり、恩返し気持ちは形にする」と市長は答えたが、田原市の特別職の報酬が4年目ごとの退職金も踏まえて、どうあるべきかという議論を深めていた

彦坂久伸氏(市民クラブ)も代表質問に立ち、3月議会での「退陣する市長はなぜ骨格予算にしなかったのか」と前市長に迫った経過から、「前市長の引いたレールに乗っていくのか、どこかで山下色を出すのか」と聞いた。市長は「事業内容を確認し

するの、現状維持でいくのか」と踏み込んだ。これについても「従来の施策を加速できないか、新たな発想、新たな枠組みの方策を生み出せないか知恵を絞っていく」とし、「山下丸は船出したばかりの印象だった。」

針
長年、豊橋市や田原市で教職の立場にあった森下田嘉治氏(自民クラブ)は花井新教育長に前教育長

「市民の足の確保は生存権に関わる」と迫ったのは河邊正男氏(共産)。



河邊氏の様々な要請に「公共交通は田原市の根幹的施策のひとつであり、森下氏は小学校の統合による教職員の減少が田原の教育に

その中で「今ある20の校区コミュニティ協議会をどのようにしていくのか」について市長は「地域を回り、さまざまな地域活動をこの目で見て、あらためて地域コミュニティの重要性を実感してきた。コミュニティにはそれぞれ培ってきた

ながら、充実すべき事業や新規事業を整理し補正予算、あるいは来年度当初予算に計上していきたい」とした。

個人質問に最初に登壇したのは辻史子氏(公明)。ただ一人の女性議員の辻氏は今期も一般質問に先陣きって取り組む姿勢は評価できる。

被害想定レベル1(発生頻度が比較的高い、M8クラス対応)の国道42号のかさ上げ問題について、消防長は国道のかさ上げには保安林や海岸部との複合的な整備も併せて必要であり、整備の方向性を一日も早くまとめていくとした。

が示した教育方針について聞いた。

河邊氏の様々な要請に「公共交通は田原市の根幹的施策のひとつであり、森下氏は小学校の統合による教職員の減少が田原の教育に

「人口ビジョン

「人口ビジョン

「人口ビジョン

「人口ビジョン

「人口ビジョン

「人口ビジョン